



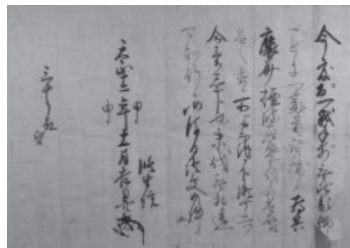
いずみさの昔と今 第300回

「根来寺攻めとその後の泉佐野」

本能寺の変後すぐに明智光秀を討ち、織田家家中で発言力を高めた秀吉は、織田家家督継承を巡る問題で柴田勝家・織田信孝らを抑え、織田信忠の子、三法師にしました。天正10(1582)年10月に秀吉は、和泉国内の根来寺知行を問題に軍勢を派遣しており、根来寺との敵対が表面化しました。同年末には後継者選定に不満を持つ勝家・信孝が秀吉と敵対します。翌年2月、秀吉は柴田方に呼応する根来・雑賀・粉河の一揆に備え、沼間任世や真鍋貞成らに書状を送り、和泉を維持するように指示しています。更に天正12(1584)年正月には、一揆勢が佐野辺りまで進出、中村一氏が岸和田城から軍勢を出して撃退、同年には小牧・長久手の戦いが起こり、豊臣秀吉と織田信雄・徳川家康が衝突します。この戦いは秀吉と信雄が和睦したことで終息しましたが、徳川方に呼応した根来・雑賀・粉河の諸勢との対決は避けられず紀州征伐が現実味を帯びてきます。当時の根来・雑賀・粉河は、本願寺との強い結びつきを有し、在地勢力との繋がりを強く維持していた根来寺の在地支配の特色も相まって、地域の勢力と宗派を越えた協力体制を構築していました。こうした根来寺の地縁による支配、本願寺との協力体制は、秀吉にとって大きな障害で

あったのでしょう。ついに天正13(1585)年3月、秀吉は和泉への進軍を開始、岸和田城へ秀吉が入城、一揆勢は近木川沿いの千石堀、畠中、積善寺、沢(いずれも貝塚市)、佐野に立て籠もり抗戦。しかし、3月21日千石堀落城・畠中城の一揆勢が撤退、22日に積善寺城が、23日には沢城が落城し、秀吉は根来寺に進軍、秀吉先陣は雑賀に進入し、根来寺は焼け落ち、粉河寺も降伏し、紀泉に一大勢力を誇った根来寺勢は衰退、紀州惣国一揆はこの後、太田城攻めにより解体されました。この紀州攻めから始まる秀吉の和泉国所領再編は、泉佐野に大きな変化をもたらしました。日根野氏や多賀氏、樫井氏などの在地武士は、秀吉の兵農分離策、知行再編などにより和泉を離れました。また、根来寺の支配下にあった地域では、兵農分離策を適用しつつ、村の侍衆・土豪のような村役人、有力者については在地から切り離すことではなく、在地の地位を認められました。これらの秀吉政権の動向は、国人ら武士を在地から切り離すことで領主的地位を否定し、秀吉政権による武士の統制に組み込むと同時に、在地における有力者(侍・土豪)の支配を認め、地域における村の安定を保持させるということを目的としたと考えられます。更に検地を行うことで荘園や国衙領、

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日(祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館)
開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料



▲天正12年の根来寺和泉進入の際に中庄新川氏が一番首を討ち取った褒美について記した書状(展示中)

大名領などの中世以来の複雑な土地所有関係を整理し、村の領域を決め、村単位で経営させるようになり、村単位で経営させる変化を経てようやく農村は安定しつつありましたが、秀吉の死後、関ヶ原の戦い、大坂の陣と再び戦火が巻き起こります。このように戦国時代の終わりに頃から江戸幕府が安定し始める17世紀初頭までの時代は、村人にとって、戦乱が収まりつつあるなかで、それまでの支配体系が変わる激動の時代でした。中世から近世へ向かう移行期の泉佐野について展示している「秋季特別展「天下分け目の樫井合戦」」は、12月27日(日)まで開催しています。

日本遺産・中世日根荘を巡る⑱ ～旅引付編(1)「長福寺跡」～



「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介し、
問合せ先 文化財保護課



◀政基公旅引付
▼長福寺跡 (大木)



▲長福寺仏堂と池跡

今回より「旅引付編」として、約500年前に九条政基が日根荘での生活を綴った日記「政基公旅引付(まさもとこうたびひきつけ)」に関連する文化財などを紹介します。文亀元(1501)年に九条政基が家臣10人ほどを連れて日根荘に下向し、入山田村に入って永正元(1504)年に帰京するまでの4年間、政基の居所となった寺院が大木の「長福寺」で、日根荘の支配を行った政所でした。そこにはお堂、政基が住む建物、天満社、井戸などがあったことがわかっています。長福寺は慶長16(1611)年の資料を最後に名が見えず、江戸時代に作成された寺社明細帳でも確認することができないことから、この間に廃絶したものと思われます。平成14・15年度に実施した発掘調査により、大量の瓦とともに建物跡・園池・井戸・石組みの暗渠水路などが発見され、寺院跡と確認されました。現在長福寺跡の一部では、史跡の維持管理と周辺景観との調和を目指した野外展示として農地と稲作体験を実践しています。

※旅引付の写真は、歴史館いずみさの所蔵の複製を使用(原本は宮内庁書陵部所蔵)